

置戸町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は、寒暖差の大きな厳しい自然環境の中、畑作では甜菜、小麦、馬鈴薯、豆類、一部地域においては玉葱を基幹作物として輪作体系を組み入れ、さらに、高収益化や新規作物の開発研究にも取り組んでいる。また、畜産にあつては、優良資質牛を増やし品質の高い生乳生産に努めるとともに、甜菜、小麦を取り入れた複合経営と計画生産、大型化によるコストの低減等により一層の体質強化を進めることで酪農の促進を図っている。

一方で、高齢化や後継者不足等により離農が進み、遊休農地の増加が懸念されており、担い手の育成確保・新規就農の促進、優良農地の確保、地域の特性を生かした農業生産の推進等が求められている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

(2) 非主食用米

(3) 麦、大豆、飼料作物

- ・麦類については、地域の輪作体系を維持する上での中心作物として、高品質麦の安定供給を図るため、栽培技術の向上に努める。

- ・飼料作物については、配合飼料価格が高止まりしている中、高栄養価な自給飼料生産のため、適期収穫体系の確立や定期的な草地更新に努める。

(4) そば、なたね

(5) てん菜

- ・他の畑作物と比較すると、投下労働時間が長く生産者の負担が大きいことや、天候不順による減収や低糖度化により、近年作付面積が減少している。輪作体系上の基幹作物として重要な位置を占めていることから圃場の湿害対策、褐斑病防除などを推進し収量性を確保し、直播栽培等による作業効率の向上を図り、安定した甜菜生産の振興をめざす。適正な輪作体系の構築のため、作付の維持・拡大に努める。

(6) 野菜

- ・馬鈴薯については、作付面積を確保しながら減農薬・契約栽培などニーズに対応した実需に合う品種構成を図りながら労働力の軽減と低コスト生産を推進する。

- ・たまねぎについては、高品質かつ安定供給を目指し、輪作を視野に入れた作付体系や土づくり、排水対策等の基盤整備に取組み、気候変動に左右されない生産体制を構築する。

- ・その他野菜については、基幹品目を補完する野菜導入の検討、既存品目の安定生産を図る。

(7) 不作付地の解消

高齢化、担い手不足等により、今後、遊休した農地の増加が懸念される中、農地の流動化を促すため関係機関が連携し、生産性の低い農地の基盤整備を進める。また、集落営農の組織化、法人化等を検討する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米			
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦	597.5	630.9	540
大豆			
飼料作物	2,013.4	2,013.4	2,130
そば			
なたね			
その他地域振興作物			
野菜			
・てん菜	412.8	416.9	475
・馬鈴しょ	315.7	316.7	358
・豆類	34.6	38.5	32
・たまねぎ	177.3	175.0	173
・その他野菜	155.3	140.0	163
・緑肥	31.4	33.0	30

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。)

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり